

令和5年度第2回  
八千代市総合計画審議会  
会議録

八千代市総合計画審議会

# 令和5年度 第2回 八千代市総合計画審議会

1 開催日時 令和6年3月25日(月) 午後1時30分から午後2時35分まで

2 開催会場 八千代市役所 別館2階 第1・2会議室

3 出席者 ◇ 八千代市総合計画審議会委員

会 長	日本大学名誉教授	伊 澤 岬
副会長	八千代商工会議所会頭	周 郷 寿雄
委 員	公募委員	中 川 裕美
	日本大学理工学部特任教授	藤 井 敬宏
	東京成徳大学応用心理学部教授	出 雲 輝彦
	秀明大学総合経営学部教授	森 中 祐治
	八千代市自治会連合会副会長	伊 藤 禎造
	八千代市社会福祉協議会事務局長	村 田 和子
	八千代市医師会会長	加 瀬 卓
	八千代市長寿会連合会会長	渡 部 正敏
	八千代市芸術文化協会理事	鐘 水 知子
	千葉県葛南地域振興事務所所長	鈴 木 淳一郎
	千葉銀行大和田支店支店長	飯 島 智和
	JAM日鉄SGワイヤ労働組合執行委員長	新行内 寛之
	株式会社ジェイコム千葉YY船橋習志野局局長	村 山 寛
	税理士	隅 田 容代
欠席委員	公募委員	石 橋 大樹
	公募委員	岡 崎 留美子
	八千代市スポーツ協会会長	豊 田 正昭
	八千代市農業協同組合専務理事	櫻 井 良夫
	八千代市子ども会育成連絡協議会副会長	荒 川 香南子

◇ 事務局

企画部長	高宮 修
同部次長	山本 博章
企画経営課主幹	中村 俊寛
同課主査補	鈴木 教央
同課主査補	綿 嶺友

4 公開・非公開  
公開

## 5 傍聴者（定員 5 名）

1 名

## 6 議題

- (1) 第 5 次総合計画前期実施計画における取組の改善に向けた対応状況について
- (2) 第 5 次総合計画後期基本計画策定に係る基礎調査報告書について
- (3) その他

## 7 会議資料

- (1) 資料 1 第 5 次総合計画前期実施計画における取組の改善に向けた対応状況について(令和 4 年度事業の効果検証)
- (2) 資料 2 八千代市第 5 次総合計画後期基本計画策定に係る基礎調査報告書
- (3) 資料 3 令和 6 年度 総合計画審議会スケジュール
- (4) 参考資料 1 第 5 次総合計画前期実施計画における取組の改善に向けた対応状況について

## I 事務局より

### ○事務局（山本次長）

本日は、お忙しい中御出席いただき、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、始めさせていただきます。

本審議会は、公開の会議となっております。また、会議録作成のため、音声を録音させていただきますので、ご了承ください。

それでは、会議に先立ち、資料を確認させていただきます。

本日配付いたしました資料でございますが、次第、席次表、資料 1「第 5 次総合計画前期実施計画における取組の改善に向けた対応状況について」、資料 2「第 5 次総合計画後期基本計画策定に係る基礎調査報告書」、資料 3「令和 6 年度総合計画審議会スケジュール」、参考資料 1「第 5 次総合計画前期実施計画における取組の改善に向けた対応状況について」でございます。配付漏れなどございましたら、事務局までお声がけください。

それでは、「八千代市総合計画審議会条例第 6 条第 1 項」の規定により、会議の進行について伊澤会長にお願いしたいと存じます。会長、よろしく申し上げます。

### ○伊澤会長

委員の皆さまにおかれましては、御多忙のところ御参集いただきまして、誠にありがとうございます。

規定により、本日の会議の議長を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ただいまの出席委員は 16 名でございます。八千代市総合計画審議会条例第 6 条第 2 項

の規定による定足数に達しております。

それでは、ただいまから令和5年度第2回総合計画審議会を開会いたします。早速ではございますが、会議次第に基づき、議事を進行します。

## II 議事

### 【議題】

- (1) 第5次総合計画前期実施計画における取組の改善に向けた対応状況について
- (2) 第5次総合計画後期基本計画策定に係る基礎調査報告書について
- (3) その他

### (1) 第5次総合計画前期実施計画における取組の改善に向けた対応状況について

○伊澤会長

はじめに、議題1「第5次総合計画前期実施計画における取組の改善に向けた対応状況について」、事務局より説明をお願いします。

○事務局（綿主査補）

それでは事務局より「議題1 第5次総合計画前期実施計画における取組の改善に向けた対応状況について」ご説明させていただきます。企画経営課の綿と申します。恐れ入りますが、着座にて説明させていただきます。

はじめに、参考資料1をご覧ください。「第5次総合計画前期実施計画における取組の改善に向けた対応状況について」ということで前回の会議から日が経っておりますので、流れを振り返って説明いたします。

前回の会議では、事業担当課の効果検証結果を記載した「八千代市第5次総合計画前期実施計画〔令和4年度～令和6年度版〕令和4年度事業 効果検証結果報告書(案)」を確認いただき、改善に関する意見などを多数頂いたところです。

その後事業担当課では、効果検証結果や審議会意見などを踏まえて総合計画の推進におけるPDCAサイクルのAにあたる改善策の検討を行ってまいりました。この検討結果などを受けて、Plan（計画）として前期実施計画〔令和6年度版〕を3月中に策定し、Do（実施）として4月から事業を実施してまいります。

今回議題1では、審議会意見に対して各事業でどのような対応を行った、または今後行うのかなど、対応状況について資料1の表の一番右の欄にとりまとめております。本来であれば全ての事業について、ご意見と対応状況を読み上げさせていただきたいのですが、時間の関係もございますので、ご意見を踏まえ、反映または対応している主な事業について、抜粋してご報告させていただきます。

事業 No 第1章-7 放課後子ども教室推進事業について、安全管理員の確保についてのご

意見がありました。令和6年度から運営管理を直営から業務委託に切り替え、内容の充実と実施校の拡大に努めてまいります。

事業 No 第1章-11 高齢者外出支援事業の高齢者外出支援タクシー券につきまして、乗り合いタクシーの提案や他事業との一体化についてなどご意見をいただきましたが、より良い制度にするために制度見直しの検討を行い、令和6年度から、駅やバス停からの距離要件や1回あたりの利用可能枚数の変更など一部制度を変更して事業を行う予定です。

事業 No 第1章-18 公的病院等救急医療事業補助事業においては、曜日によって救急医療体制が手薄になっているのではとご指摘いただいたことに対し、令和6年4月から実施される医師の働き方改革により医師の時間外勤務に上限が設けられ、各医療機関は体制の維持に苦慮すると予想されるため、関係機関の状況の把握に努めてまいりたいと考えております。なお、夜間の小児診療及び歯科の休日診療につきましては、医師の働き方改革により同様の体制維持が困難であることから、令和6年4月から診療時間の短縮など制度の見直しを行う予定です。

事業 No 第4章-14 バラ苗配布事業においては、指標や学校におけるバラコーナーの設置などについてご意見をいただきました。指標については、当事業が市の花「バラ」の啓発事業であることを鑑み、次期実施計画においては指標を見直すこととしており、「市の花が〔バラ〕であることを知った人の増加」と変更する予定です。そのほか、学校におけるバラの啓発については、八千代市地域振興財団の緑化推進事業において小中学校に対しバラの購入助成券を提供しており、学校ごとにバラの植栽を実施しています。

事業 No 計画の推進-3 地域コミュニティ推進講座開催事業について、講師を地域住民にて担うことについて提案されておりましたが、現状では経験・実績のある大学教授などの招へいを第一に考えております。しかし、講師依頼費用が予算化できない場合においては、その他手段を検討していく必要があると考えております。なお、今年度より市民活動サポートセンターを福祉センター内のボランティアセンターと機能統合させ、ボランティア・市民活動推進センターとして設置しておりますが、この推進センターにおいて3月22日には人材発掘や育成をテーマとする市民活動団体向けの講座を開催しております。

抜粋して主な対応状況についてお伝えさせていただきました。議題1の説明は以上となります。

#### ○伊澤会長

それでは、ただいま事務局から説明がありましたとおり、今年度第1回の本審議会において、執行部から提出されました「令和4年度事業効果検証結果」に対し、我々から様々な意見を出させていただきました。

その意見に対する執行部の対応状況を取りまとめたとのこと。この内容につきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。それでは、次の議題に移ります。

## (2) 第5次総合計画後期基本計画策定に係る基礎調査報告書について

議題2「第5次総合計画後期基本計画に係る基礎調査報告書について」、事務局より説明をお願いします。

### ○事務局（鈴木主査補）

それでは、事務局より「議題2 第5次総合計画後期基本計画策定に係る基礎調査報告書について」説明させていただきます。後期基本計画は、令和5から6年度までの2年間で策定する予定です。今年度は様々な調査を行ってまいりました。その調査の報告がまとまりましたので、後期基本計画策定業務を支援していただいております、ちばぎん総合研究所にお願いしたいと思います。

### ○事務局（ちばぎん総合研究所）

ちばぎん総合研究所の関と申します。恐れ入りますが、着座にてご説明させていただきます。

資料2 八千代市第5次総合計画後期基本計画策定に係る基礎調査報告書をご覧ください。本日は、こちらの基礎調査のポイントを説明いたします。

まずは1ページをご覧ください。社会経済情勢の動向調査になります。本調査では、本市を取り巻く内部・外部の環境について整理しました。

3ページをご覧ください。本表は、本市の内部・外部環境を一表にまとめたものです。本日は、八千代市の強みと弱みをご説明します。まず、本市の強みですが、子どもを産み・育てやすいことや生活利便性の高さがあげられます。自然災害や犯罪が少ないなど治安も良く、市民の安心・安全が担保されています。また、豊かな自然に囲まれており、温室効果ガスや都市ごみの排出量が少ないエコロジーなまちでもあります。人口面では、東京近郊エリアからの移住・定住が進展しており、現在も人口は緩やかな増加の動きを続けています。行政運営の面では、人口当たりの職員数が少ないなど行政のスリム化が進んでいます。一方、弱みとしては、保育所や小中学校、高齢者向け福祉施設、スポーツ施設などの需給ひっ迫があげられます。これは、人口が増加しているゆえの副産物と言えそうです。また、本市は、外国人も含めて新たな移住・定住の受け皿になっているだけに、新住民も含めた地域コミュニティの充実も大きな課題です。女性や高齢者の就業率がやや低い水準に留まっており、市内における働く場の確保も大きなテーマです。文化財や観光資源が少ないことから、市民の心の拠り所となるような地域資源のブラッシュアップも求められます。行政運営の面では、経常収支比率が県内で3番目に高水準となっており、慢性的な財政硬直化が見られます。

4ページをご覧ください。今回、本市の内部環境分析として、各種指標を偏差値化して、県内及び周辺3市（習志野市・佐倉市・印西市）における本市の位置づけを明らかにしました。今、ご説明した本市の強み・弱みのエビデンスとなっていますので参考になさってください。

さい。

6 ページをご覧ください。次に、八千代市市民意識調査結果をご説明します。本調査は、令和5年9月に18歳以上の八千代市民と八千代市外に住んでいて八千代市で働いている方を対象に実施しました。調査概要の一部修正ですが、アンケートは郵送による回収に加え、インターネットを併用して実施いたしましたのでご承知おきください。本日は、八千代市民のアンケート結果をご説明します。なお、本調査の有効回答率は前回調査より上昇し、33.0%でした。

7 ページをご覧ください。図表3の八千代市のイメージをご覧ください。八千代市に対する市民のイメージは、「生活に便利な都市」が最も多く、「自然が豊かな都市」、「安心して暮らせる都市」が続いており、この3項目で8割以上を占めています。その下の図表4「八千代市への愛着心」ですが、「愛着がある」「どちらかといえば愛着がある」の合計は、前回調査より上昇し、8割を超えました。

8 ページをご覧ください。図表5は八千代市への定住意向ですが、「ずっと住みたい」と「当分の間住みたい」をあわせた「住みたい」と回答した市民の割合は約8割となっており、前回調査との比較でも4ポイント増加しています。住みたい意向がある回答者に理由を尋ねたところ、「自分の家・土地があるから」が約6割で最も多くなっています。

11 ページをご覧ください。図表10は八千代市が力を入れて取り組むべき施策分野ですが、上位5位は、「高齢者」、「子育て支援」、「公共交通」、「道路」、「防災・防犯」となっています。これらは、後期基本計画で優先的に推進すべき施策分野ととらえることができます。

12 ページをご覧ください。図表11は、横軸に市民の重要度、縦軸に市民の満足度をとった、まちづくりの分野別のプロット図です。ご覧の4つの象限のうち、ピンクの点線で囲まれた右下の分野がまちづくりの優先順位が高いものと考えられ、道路及び交通関連、高齢者福祉や子育て支援、地域医療などの市民ニーズが高いことが分かりました。

18 ページをご覧ください。各種団体アンケート調査結果のご説明をいたします。本調査は市内の各種団体54団体、自治会253団体を対象に実施し、有効回答率は50.2%でした。

20 ページをご覧ください。図表23の「活動にあたって困っていること」をご覧ください。各種団体は、会員の減少・不足が約7割で最も多く、自治会では、リーダー・役員の不足が約5割で最多となっています。図表24の「行政に望む支援」をご覧ください。各種団体は、「活動内容の広報やPRに関する支援」が約6割、自治会は「活動をサポートする人員に対する支援」、「活動に役立つ情報提供」がいずれも約3割で最多となっています。

22 ページをご覧ください。図表26は八千代市の発展の方向性です。トップ3は、「医療や福祉の充実したまち」、「災害に強いまち」、「居住環境の整備されたまち」となっています。なお、本市は、地盤が強固な下総台地に位置し、東日本大震災の際にも、建物の全壊が6棟、半壊が24棟に留まる「災害に強いまち」です。

24 ページをご覧ください。自治会からみた地域の魅力と課題を整理しました。地域の魅

力としては、総じて、生活利便性の高さや豊かな自然環境をあげる向きが多くなっています。一方、地域の課題ですが、キーワードとしては、高齢者福祉、空き家問題、道路整備、地域コミュニティのあり方、小学校の過密問題などがあげられ、課題に関しては一定の地域性もあるようです。

25 ページをご覧ください。「市民ワークショップ」の概要をご説明します。市民意識調査の回答者のうち、八千代市のまちづくりに関心がある市民 40 名にご参加いただきました。ワークショップのテーマは、第 1 回が八千代市の魅力や課題について、洗い出しと整理を行いました。第 2 回は、今後のまちづくりの方向性や優先的に取り組むべきことについて議論していただきました。

28 ページをご覧ください。ワークショップの成果のうち、自治体にやってほしいことは、今後の施策・事業を考えるうえで参考になるのでご紹介します。ユニークなものを班ごとに紹介すると、若者世代チームの「空き家のリノベーションに対する補助金」、子育て世代チームの「自動運転バス運行による大幅増便」、転入者チームの「歩道橋エレベータの設置」、現役世代チームの「外国人との交流の場をつくる」、高齢者チームの「東葉高速鉄道の運賃引き下げ」などが目を引きました。これらの意見は、すぐにできることから時間のかかるものまで、正に玉石混合ですが、いずれも市民の皆様の重要なご意見ですので、参考にしながら総合計画の策定を進めて参ります。

34 ページをご覧ください。これまでご説明してきました調査結果を踏まえて、八千代市のまちづくりの課題を整理しました。35 ページの A 3 見開きの表をご覧ください。縦軸に、今回整理したまちづくりの課題、横軸に調査結果のエビデンスを掲載しています。

八千代市民への意識調査によると、八千代市が力を入れて取り組むべき施策分野として、高齢者、子育て支援、公共交通、道路、防災・防犯が上位となっており、これらは、今後の中核的なまちづくりのテーマといえます。

八千代市の人口は、主に東京近郊からの流入が続いていますが、2029 年には人口がピークを迎えるとの推計もあります。八千代市は、「住み続けたい」市民割合が約 8 割にのぼるなど、生活環境やアクセス利便性に恵まれ、移住・定住のポテンシャルは県内屈指といえます。一方、人口増加の反動ともいえそうですが、人口当たりで見ると、小中学校や保育所、福祉施設、スポーツ施設などが不足気味であり、生活インフラの更なる充実が求められています。

産業面をみると、産業集積の乏しさや観光面のポテンシャルが低く、産業振興及び観光振興にも注力する必要があるようです。

八千代市は、外国人も含めて人口の流入が続いており、地域コミュニティをいかに活性化していくかという視点も欠かせません。また、各地域の自治会からは、高齢化により地域のリーダーが不足しているとの声も聞かれるなど、市民自治の担い手の確保も必要です。

「市内で SDG s が推進されるべき」と考える市民が約 7 割にのぼるなど SDG s（とりわけ脱炭素）への市民の関心が高まっています。あわせて、政府が進めている「デジタル田



園都市国家構想」に歩調をあわせて、デジタルトランスフォーメーションを活用したまちづくりも中長期的な視点で進めるべきテーマだと思います。駆け足ではございますが、本年度の調査結果についてご報告させていただきました。

○伊澤会長

ありがとうございました。それでは、ただいま事務局から令和5年度に実施した後期基本計画策定に係る基礎調査結果について説明がありましたが、この内容に対して、ご意見がありましたらお願いいたします。

この報告書は非常に見やすく、大変感心しております。何かございますか。

○渡部委員

高齢者の問題がトップクラスになっているので、あえてお話させていただきます。八千代市には、65歳以上の高齢者が5万人、一人暮らし高齢者が1万人います。八千代市長寿会連合会は昭和39年に発足し、2月に60周年を迎えました。42の老人クラブを抱え、直近の会員数は2,250名です。高齢者の問題がトップクラスで、これはこれでありがたいのですが、本日も八千代市長寿会連合会の福祉大会が行われ、服部市長や社会福祉協議会の綱島会長に御来賓でおいでいただきました。私はこの長寿会は非常に大事な会だと思っています。特に、特殊詐欺では、鎌ヶ谷市では86歳の女性が1,150万円の被害に遭い、千葉県では去年30億円の被害が発生しています。被害者は100%高齢者です。高齢者福祉として我々も甘えることなく、毎月<sup>ごと</sup>五十日に声掛けして高齢者の安否確認しているクラブもあります。こういった率先した絆づくりも大事だと思っています。特殊詐欺防止につながるでしょうし、6人に1人が一人暮らし、5人に1人が認知症の時代です。我々も積極的に会員を増やしていこうと思っています。

お願いしたいのは、ライドシェアです。足を何とかしてほしい、困っているとよく言われます。先日の日経新聞に載っていましたが、富津では、既にデマンドタクシーに取り組んでいて、全国で4,500台のデマンドタクシーが動いているようです。タクシー券も大事ですが、やはり免許証を返納した方に対してどうやって対応していくかということ、やはり行政としても考えていただきたいし、高齢ドライバーに手を差し伸べることにもなるので、ぜひ来年度検討いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局（中村主幹）

ご意見ありがとうございます。八千代市の構造的に高齢者の方が非常に多く、今後増えることを認識しております。それに伴っての交通というのは1つの大きなテーマだと思いますので、担当部局と情報共有させていただきます。

○伊澤会長

ライドシェアの話がありましたけれども、これは、国の判断がでていますか。でているとすると、八千代市に置き換えるのはいつ頃可能ですか。

○事務局（中村主幹）

申し訳ございません。今、具体的な本市の状況というのを手元に資料がなく把握していません。これについては、担当部局にお伝えさせていただきます。

○伊澤会長

専門家がありました。交通のスペシャリスト、藤井先生お願いします。

○藤井委員

今、ライドシェアとデマンドの話がございましたが、これらは全く別物なので、その扱いについては要注意しながら取り組まないといけないということでもあります。

また、富津市でという話もございましたが、私は富津市の新公共交通部会の委員でして、そこでやっているのは全くタクシーが配車できない地域、こういったところで住民の方たちをタクシー運転手が支援してという形で運用しているものということで、ライドシェアに近い形で運用していますが、NPOがアルコール検査から全部行う、別のアプローチで行っていますので、単純なライドシェアとは違うということをご理解いただきたいです。

それから、ライドシェアそのものは、ご指摘のように東京・神奈川を含めて、これから少しずつ動いていきます。これは法的にもということ、タクシー会社がドライバーの管理運営をするといったところも一つのアプローチの仕方として認められてはいますが、どこまでの管理責任をタクシー会社が負うかというところは非常に難しい問題がございます。一種免許の方に運転を促していくという形で事故があったときにどうするのか、そういった問題まで含めて、リスク処理だけをタクシー会社に負わせるのかなど、そのような側面も考えなくちゃいけないということで、特定地域の中では動き出していきますけども、まだ全国的に一気に動くといったものではないといったところです。特に、利用者が多いところについては、シェアできる仕組みにはなりますが、実際に運賃収入を周知した形の中でサポートしていくとなると、交通が弱いところは、なかなかその担い手が少ないとか、大きな問題を抱えているといったところで、この八千代市でどういう地域に例えばどういう形が、どういう実運行ができるかといったところについては慎重に検討していないと、実際にアプローチしても身の丈に合ったものになるのかならないか、そういった側面を考えなくちゃいけません。その辺の難しさがありますので、地域公共交通会議の中で、担当部署の中で議論をしていくということがまず大事なかなと思います。

それとは別に、ちょっと今話した中で申し訳ないのですが、意見を続けてよろしいですか。今回まとめていただいた中で、私は都市計画的なアプローチで見えてしまうのですが、そうしたときに、今回、地区別といったところでは、自治会単位の問題・課題なども出てきていま

す。そういった中で、最後の図表 29 を見ると、一覧的な要素として一つの柱が見えるのですが、八千代市そのものを見ると、京成電鉄沿線の市街地を中心としたところ、それに東葉高速といった住宅団地を中心として新しくまちができたところ、それから北部の地域として、市街化調整区域を含めた点在するような利用の仕方をしているところ、それから高津・村上・米本といったように、昔の住宅復興、今URが運用しているところの中で、先ほど高齢者比率が高いというお話がございましたが、そういった住まい方・暮らし方が違う地域があります。こういったときに、総合計画は都市マスとは違うので、地区別のところは具体的な表記の仕方はしないにしても、これだけ地域特性が違うので、それぞれの地区問題を、やはりレイヤーで重ねながら具体化して行って、トータルとして、この地域にとって次のアプローチ、計画を立てるときに、どのエリアについてはどういう方向性のところを強く打ち出したほうがいいのか、そういったところのメリハリが効くような、評価の仕方をしていただけるとありがたいと思います。アンケートの集計としては分かりやすいのですが、これが本当に八千代全体の総意かという点、どうもやっぱり地区別評価をしていかないと、その辺がきちっと具体的に出てこないかなと理解いたしましたので、意見を述べさせていただきました。

○伊澤会長

大変貴重なご指摘だと思います。事務局のほうでこういう方向にいけそうだとか、ちょっと待ってくれとか今の段階での状況など、不確定なことでもよろしいですが、ご説明いただけますか。

○事務局（中村主幹）

非常に参考になるご意見ありがとうございました。今年度、市民や市内で働いている方、ワークショップでいろいろな世代の方からご意見をいただきまとめている段階です。関係部局へのヒアリングも行いまして、これから素案をつくっていくところです。地区別の考えなど、全体の構成など今後まとめていく段階になりますので、今のご意見を参考にさせていただきますながら今後検討していきたいと考えております。

○伊澤会長

確かに、エリアによって特性がかなり違いますね。事務局のほうでご検討よろしく申し上げます。

○渡部委員

地区別の検討、賛成です。そのときに足の問題は本当に検討に入れていただきたいです。この前、酒々井町へ行き体験しましたが、行政が車を動かして、手を挙げると車が止まり助手席に年寄りを抱えて乗せたりしていました。八千代市も同じです。阿蘇と緑が丘、高津は

違います。ぜひ検討していただきたいと思います。よろしくお願いします。

○伊澤会長

行政としては、将来を考えて議論といいますか仕組みづくりをぜひ進めてもらいたいです。実効性が早まるかどうかは別として、重要な視点だと思います。よろしくお願いいたします。

その他ございませんか。女性の方もご意見いただけるとありがたいです。隅田さんいかがですか。

○隅田委員

市民アンケート、団体アンケート両方で高齢者に対する施策が大事であると出てきたのは、高齢者の声が大きいうというより、高齢者の問題が多いのかなと思いました。高齢者の施策というとぼんやりしていますが、今、足の確保の問題も大きいと教えていただきまして、ぜひ計画のなかに入れていただければと思いました。

○伊澤会長

非常に重要な視点だと思います。先ほどのライドシェアなどいろいろなことにつながっていて、多分、八千代としては、今の問題を今後具体的にどのように展開するかというのは重要な問題になると思います。ありがとうございました。他にございますか。

○伊藤委員

24 ページから自治会の報告があります。実は、自治会の補助金が少し上がったのですが、それに引き換えて提出する書類があまりにも多いです。それから、実際に自治会の役員さんはかなり高齢化してしまっていて、そういう書類をもう少し簡単な報告でいいように、お金の問題だからきちっとしなきゃいけないのは分かるんです。でも、高齢化してくると、そういう報告をするのは結構大変です。補助金っていうと、自主防災などあるんですけど、恐らく、行政としても自治会に頼っているところはかなりあると思います。そういう意味で、だんだんと提出する書類が多くなってくると、おじいちゃんやおばあちゃんは結構厳しいです。ただ、その高齢化で済ましてしまう部分が自治会の中にあるんじゃないでしょうか。逆に言うと、若い人がやってくれないので、高齢者が一生懸命何年も頑張っている部分があります。それから、僕らからすると、住民がマンションの管理組合に要求することと、住民が自治会に要望するっていうのはほとんど同じです。今現在、自治会としては組織率が下がっていますが、マンションの管理組合を自治会と同じ扱いにできないのでしょうか。自治会に入っていない住民というのは、回覧が回りません。同じ住民税を払っていても、マンションの管理組合を自治会として認めていません。各マンションで塊があるにも関わらず回覧が回らない、これはやっぱりちょっと不便じゃないでしょうか。行政としても、活用できるものは活

用したほうがいいのではないかなど。行政が持っている情報、それから回覧をできれば回したいと思っています。

○事務局（中村主幹）

ご意見ありがとうございます。状況は不勉強で申し訳ないですが、ただいまの提出書類の数が多ということでご不便おかけして大変申し訳ございません。それも含めまして今頂いたご意見を担当部局にお伝えさせていただきます。

○伊澤会長

宜しく申し上げます。他にございますか。

本日、加瀬委員がお見えでございますので御挨拶頂きたいと思います。コロナ禍で、この会議をやっていたときに、ぜひ加瀬先生に出ていただきたいと思っておりましたので、今後のいわゆる感染症とかそういうものに対しての八千代市の在り方を含めて簡単にお話しただけだとありがたいと思います。よろしく願いいたします。

○加瀬委員

加瀬と申します。医師会の会長をしております。よろしく申し上げます。コロナは、皆様のご協力のおかげでどうにか大きな波を乗り越えて、去年の夏頃に普通の感染症の扱いに戻って、それから予防接種も普通のインフルエンザと同じように4月からなります。やはりこの数年間のコロナの教訓というのは非常に大きかったらと思います。我々医療従事者からいたしますと、それで頑張っていたつもりですけれども、やはり未知の感染症というのは非常に大変なものがありました。自分ではやりたいけれども、道具がないとか、治療の薬はもちろんですけれども、もともとは防御するための機材もなかった状況でやるだけだけれども、やっぱり市民の命は守りたいし、それから要望に応えたいし、非常に大変な時代がありました。教訓が得られましたので、それに対する準備というか備えは大分されてきたらと思います。ただ、感染症の流行り方とか、あるいは毒性とかいろいろなことがあって、それぞれ臨機応変な対応を求められると思いますが、我々も常にそれに対する訓練を始めておりますので、少しでも皆様の期待に応えられたらなと思っております。これからもよろしく申し上げます。

○伊澤会長

建築家の私の立場から感染症に鑑みて、各開業医の病院の動線が、どうしても中でとどまってしまう。建築としてコロナで感じたことは、どうしても突き当たりになると病院内の感染が非常に広まるだろうなど。何かパスできるような診療所が絶対必要だなと常々感じておりましたので、またご参考になればご意見申し上げたいと思います。ありがとうございます。他にございますか。

○藤井委員

八千代市の総合計画でいつも戸惑っていることがあります。というのは、他の自治体に比べると、この総合計画の計画年次が短い、これは市の特性なので私も理解はしていますが、基本的に8年、それを4年ごとに繰り返していくという、そういったやり方をしています。そのときに、資料2も、具体的にそれがどういう効果があらわれているか確認していくような調査ということで基本計画の領域ですけども、別途出てくるところでは、実施計画という言葉が使われているところもあります。実施計画というと今事業が展開されている話になってきます。そういったときに、どっちの時間軸の話がされているのかが混乱するところがあるので、どちらかという、先ほどの足に困っているという話は、今困っているんだから今解決しなければいけないよねっていう話になるんですよね。でも、都市計画的に将来こういう姿にしたいから、今この年次までにはこういったアプローチをとろうねっていう考え方をとります。それが混在しているようなところが、話を聞いているとあるので、基本計画をやるスタンスのときには少し先を見たときに、このまちをどうしようと思っているかといったところのコンセプトといったところを事務局で少し整理をしていただくとか、そうしていかないと、実施計画の事業計画と何か直結型になってしまって、今まさに全てがこの計画で動いているというふうになりかねないところがあるので、ぜひその辺の交通整理を事務局の中でしていただいて、資料として今後出てくると、今回のところはアンケート調査をしているので、その調査をそのままではいいのですが、その中からすぐってくる案件について、今やるべきことと少し将来に向かってやるべきことと、その辺のところを仕分した形でぜひ上げていただきたいと思います。これはお願いでございます。

○伊澤会長

先生はいろいろな自治体で委員をされていますが、参考になるような資料がありましたらご準備いただけますか。

○藤井委員

いろいろありますが、やり方が違います。例えば市川市だと、25年先の総合計画をつくるっていう形になっているので、完全に時間軸が違います。かつ、柏市の総合計画も私関わっていますが、そこはこの委員の方たちが、ワークショップの中で将来の柏市の方向性を考えようと。もちろん、その下の段階では、市民、それから学生のワークショップもやっています。それぞれ自治体のやり方が違うので、正解をここに持つてくるってなかなかできないです。八千代市は、八千代市の中の、市民に向けてあるいは地域特性に応じて、この総合計画を考えたときに、8年という時間軸を使っているの、他の自治体よりも計画が今動いていることにどうしても目が行きやすいのでやっぱり将来目指す方向性というものはちゃんと方向性として挙げながら、今動かすことを考えていかないと、どっちの議論をしているの

か、だんだん分からなくなってきましたので、その辺の事務局の整備だけお願いするのがいいかなと思います。他の事例を持ってくるのは幾らでも可能ですけども、恐らく混乱されてしまうかもしれません。

○伊澤会長

例えばライドシェアというのは、八千代市にとってはどのような位置づけになりますか。

○藤井委員

ライドシェアの場合には、まずはタクシー事業者がエリアとして対応できるかできないかという判断をまずしていかないとはいけません。タクシー事業者で対応できるようなデマンドタクシーであるとか、あるいは地域にとって本当にどういうニーズがあるかを調べてからでないと対応できません。

○伊澤会長

良いヒントを頂いたと思いますので、行政の方はぜひそういう形で、まずはタクシー業者との意見交換、将来計画を共有できるかできないか。ぜひ進めていただきたいと思います。ありがとうございます。他にございますか。

### (3) その他

○鎌水委員

本来なら前回提案することだったかなと思いますが、今日は、新川、広域公園、図書館へのマイカー以外のアクセスを提案したいと思います。八千代市第5次総合計画ダイジェスト版8ページに、文化施設利用人数の現況値と目標値があり、それは目標値と10万人ぐらいの差があるんですけど、これをどうやって埋めていくか。オーエンスができてもう既に8年くらいですよ。この問題はずっと尾を引いている問題ではなく、最初のうちは駐車場の料金の問題だったと思うんですけども、そのことは深く市民にも浸透しましたので、知恵を絞ってお金がかからないようみんな利用していると思うんですけど、その利用者数を増やすということについては、もうマイカーだけでは、利用者数を増やすことはできません。新川周辺の皆さんはとてもうらやましいかと、私は大和田新田ですからここまで遊びに来るには大変な努力が必要で、私は現在車がありますので、時間があれば遊びに行けますけれども、私たちぐらいの年齢になって先ほど足という話が出ましたけれども、車の免許を返納する、そういう人たちは1日家にこもって、図書館に行きたいな、新川に散歩に行きたいなと思っても、車がないとなかなか遠くの人には行けないということで、今回、目標値に近づくためのマイカー以外のアクセスについての提案をさせていただきたいと思います。

広域公園へ行く方法ですけれども、近隣の交通方法から見ますと、まず一つ目は、八千代中央駅からバスか徒歩です。もう一つは村上駅から徒歩、もう一つは勝田台駅から16号の

ジョイフル前でバスを降りて、裏道を歩いていくってこの3つの方法、皆さんに聞くと、これぐらいかなっていうことでありまして、本来だったらもっとバスがあったらいいなバスの本数があっていいなとかそういうことですが、これは、バス会社さんの事情もあってそんな簡単な話ではないということで、現状でどうだろうかというわけですけれども、一つは、各駅に、広域公園行きのバス停がはっきり分かるような表示をしていただきたいということです。私はバラ園の近くの緑が丘地域に住んでいますが、バラが咲く時期には誰が見てもここがバラ園に行く道だと分かるような大きな看板が出ます。歩道、遊歩道もありますから、バス停と遊歩道の案内が出るのであれぐらい大きな、誰が見ても電車降りたらすぐここかって分かるような大きな看板を、八千代中央駅、村上駅、それから勝田台駅の一つ設置していただきたい。それから、徒歩で行ける村上駅ですけれども、私たちは展覧会のたびに、地図を添えて最寄り駅をご案内するんですけれども、私も1回歩いてみましたが、村上の人間ではありませんから、2回ほど人に聞かないとたどり着けませんでした。駅を降りてすぐに新川方面は右っていうのと、住宅街を10分ほど歩いて最後の新川へ出るところにこの道を右っていう1メートル四方ぐらいの看板が2か所にありましたけれども、そこへたどり着くまでに2回ぐらい、地域の人に聞きながら、わずか10分の道ではありますが、ずっと行けない道でしたので最初と最後だけじゃなくてつまずくところにも、こっちとか左って看板を出していただいて、広域公園は歩いても行けるということを市民の皆さんに徹底していただきたいです。これが行きの話です。

次は、帰りの話です。展覧会に来ると皆さんから、帰りは何時のバスがありますかってよく聞かれます。オーエンスの前には米本行きのバス停がありますが、土日の帰りは12時44分と17時14分の2本しかないんですね。でもこれが大きくオーエンスの入り口に掲示してあったら、午前中に来た人は12時44分で帰ろう、それから午後見えた方はこの15時44分で帰ろうってことで目安ができて、車がなくても図書館や新川周辺を利用できるのではないかなと思いますので、そういうふうに、看板を設置してもらうこと、それから、オーエンスのエントランスに大きく分かる帰りのバスの掲示をしてもらうこと。千葉県の県立美術館なんかに入ったところに帰りのバス時刻表が掲示してありますので、そんなに難しい話ではないです。お金のかかる話でもなく、すぐできそうな話ですので、お願いしたいと思います。あとは、バスが午前中1本、午後1本とかではなくて、1時間1本ぐらいずつっていうのは相手のあることですから簡単な話ではないですけども、粘り強い交渉がなされたいかなと思います。今日はこのことを提案したいと思います。よろしくお願いします。

#### ○伊澤会長

ご提案ありがとうございます。行政としても、八千代市民にとって重要なフィールドといますか施設に行ける共通の地図が、いわゆる路線、駅の前にあるということが非常に重要ですね。ぜひしゃれた看板にしてください。大きさだけでなく、グリーンを使った地図があってその横に、バスの時刻表がリンクして見られるような工夫をぜひお願いします



す。大賛成の提案でしたので。そんなに大変ではないと思います。

○鍾水委員

芸文協の理事会でこの話をみんなでまとめたんですけども、そのときに村上駅から新川まで出るところを、新川ロードとかアートロードとか名前をつけて、あんまりいい道路ではないので、石畳にするとか、カラー舗装するとか、楽しく新川まで歩ける、新川のサイクリングロードの延長みたいにして村上駅からつながっている案はどうだろうなんていう話も出ましたので、付け加えておきます。

○伊澤会長

そんなに大変な仕事じゃないと思いますので、ぜひ一つ一つ対応していただけるとありがたいと思います。

その他ということでご発言いただきましたが、他にございませんか。なければ次にいきたいと思います。

それでは、ご意見が無いようですので事務局から何かございましたらお願いします。

○事務局（鈴木主査補）

事務局より、来年度の総合計画審議会のスケジュールについてご報告させていただきます。資料3をご覧ください。先ほどの説明でもありましたが、来年度、基本計画策定ということで令和6年度2月に策定を予定しております。皆様にご協力いただきながら策定していきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいいたします。今のところ3回予定しております。あくまで予定ですので、これ以上増える場合もございます。どうぞよろしくお願いいいたします。

○伊澤会長

それでは、以上を持ちまして本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。